

令和6年度公立大学法人北九州市立大学評価委員会（第4回）議事要旨

- 1 開催日時 令和7年1月14日（火）10:00～11:50
- 2 開催場所 オンライン会議（北九州市役所5階プレゼンルーム）
- 3 出席委員 （五十音順：敬称略）
岩武 玲子、権頭 喜美恵、勢一 智子、安浦 寛人、吉谷 愛

4 議事内容

（1）第4期中期計画の変更について

北九州市立大学から、第4期中期計画の評価指標について説明【資料1、2】

○主な意見・質疑

（委員） 評価指標のいくつかの項目において、指標よりも現状が上回っている。例えば、国の評価機関の基準や外部基準がある場合は、現状維持以上を目指すことでも良いと思われる。

北九州市としても、力を入れている再生可能エネルギーやカーボンニュートラルの分野は、今後さらに進展していくと思われるため、現状維持で良いのか。

次に、科学研究費の獲得については、若手研究者の支援として非常に大事なことである。研究者の年齢構成は変動するため、獲得件数よりも獲得割合のほうが良いのではないか。

（大学） 今回の評価指標の基本的な考え方は、過去の実績などを踏まえ設定している。ただし、大学として特に力を入れる取組は前回の実績を上回る設定となっている。

一方で、高い目標値を追うことばかりに注力してしまうことがないよう、各項目において、バランスをみて設定した。

再生可能エネルギー等に係る研究推進では、その年の教員の研究テーマや連携協定の状況により実施件数にばらつきがあることを考慮した。

（委員） 科学研究費のような研究は規模感が揃っているが、プロジェクトになると大小様々である。また、大きな研究が1件あれば、数多くの研究者が関わってくる。

研究件数が良いかは少し難しい面があるが、大学においても熟慮した結果であると思う。

できるだけ現場で実務する教員等の応援となるよう評価においても工夫をお願いしたい。

（委員） 「学生支援の充実」の評価指標である退学率というのは、社会的な情勢や家族環境などの状況にもよるため、他の評価指標がないのか。例えば、全学生対象に行っているUPI（精神的健康度調査）で、心の健康調査の回答率はどうか。

また、ひびきのキャンパスと全学の退学率を比較した場合、ひびきのキャンパスの退学率のほうが高くなっているため、ひびきのキャンパスにおける早期支援システム導入を早期に実施してほしい。

(大学) 全学生を対象としたUP I (精神的健康度調査)は、学生の約40%からの回答であるが、学生支援の充実で評価指標にした退学率というのは、その原因を分析することで、学生支援につながることもあるため大学としては非常に重要な指標で注視すべきと考えている。

(委員) 社会実装に向けた研究の推進では、現場や社会の中での関わり方、連携なども非常に大切だと思っており、社会から求められるもの、必要とされてるものを企画していくことも必要だと思う。

(委員) 「eポートフォリオの構築」について、これを導入することによる目的をどのように考えているか。また、導入は早期に行ったほうが良い。

(大学) 導入目的の一つ目は、学生自身が学習成果を把握し、次にどう生かすかを自分で考え学習を進めるようになる点、次に大学側にとっては、この学習成果のデータ等を分析することにより、学生への指導や教育改善に繋げていくことを考えている。

令和5年度は、既に導入した大学への調査を実施し、システム導入後の課題や導入経費の問題などがあることが分かった。更に、今年度は個々の大学への聞き取りを実施し、費用を抑えつつ学生の使い勝手がいいシステム導入について、引き続き検討を行っている。

来年度は、ポートフォリオの構築の方向性を決めたいと考えており、令和9年度を目途に導入する目標を立てた。

(委員) 評価指標が人数で設定しているものと、パーセンテージで設定しているものが混在している。各評価指標はそのまま良いので、評価書をまとめる際には、人数とパーセンテージを併記したほうが良い。

(委員) 「地域共生教育センターの取組」では、ひびきのキャンパスでの新規プロジェクト分も含め、もう少し評価指標の設定を上げて良いのではないかと。

次に、「SDGsへの貢献」は、北九州市がSDGs未来都市ということもあるため、教育面・研究面から指標設定ができないか。

(大学) 地域共生教育センターの取組は、ひびきのキャンパスの新規プロジェクトへ参加する学生数が数名程度と見込み、年平均の参加学生数を現状維持以上と設定した。

次に、SDGsへの貢献では、イベント実施のほかにも基盤教育科目へのSDGsに関する科目の設置やSDGs達成に資する研究支援にも取り組んでいる。

(委員) 「リカレント教育」について、これは全国の公立大学で非常に地域貢献として期待されているところで、特にデジタル人材育成は地方創生のマネジメントをするような人材が全国的に不足していて、地域で人材を再教育していくことは非常に重要である。もう少し積極的な数値目標とすることは難しいのか。

次に、情報発信の実施項目が大学ウェブサイトのニュースの件数ということだが、ウェブによる情報発信も、ただウェブサイトに掲載すれば良いわけではない。最近では、SNSの活用等により発信に工夫が必要である。

(大学) リカレント教育については、大学で開講している教育プログラム「i-Designコミュニティカレッジ」を想定している。ご指摘のデータサイエンスの人材育成に関しても、「社会人のためのデータサイエンス基礎」という領域を設定している。

次に、大学の広報戦略では、ウェブサイト、SNS、ネット媒体等を使って、大学及び入試広報に取り組んでいる。評価指標を検討した際に、SNSの閲覧件数やウェブサイトの閲覧件数も考えたが、まずは積極的な大学からのPRという観点から、大学ウェブサイトのニュース件数を評価指標とした。

(委員) 評価指標に大学ウェブサイトに掲載するニュース件数が年平均400件以上と設定しているが、今は他大学においても、情報発信をSNSやYouTubeの方にシフトしていることが多いため、指標の管理という意味でも検討いただきたい。

(委員) 「シビックプライドの醸成」では、やはり北九州市をもっと知ってもらうことが大切であり、北九州市の歴史や文化などについて知ってもらう機会をたくさん作っていただければと思う。そういったことを知った上で、地域の課題解決や地域へ貢献したいという気持ちに繋がれば良いと思う。

(大学) 大学にとっても重要な点だと認識している。そのため、地域科目を12科目以上用意しており、その中でご提案の問題意識であるとか知識を増やす機会をつくっていきたいと考えている。

また、大学では文化資源調査隊を立ち上げ、市内の博物館等と連携して、市のいろいろな文化資源の発掘、再発見を実施している。北九州市民憲章の一つに「文化かおるまちにします」とあるため、文化や芸術ということについても発信できればと思う。

(委員) 情報セキュリティに関して、「研修を実施した結果、セキュリティに関しての漏えい事故はなかった。」となるよう、不祥事発生件数ゼロを目標にした方が、もう少しシビアになるのではないかと感じた。

情報セキュリティに関しては、なかなか難しい面もあると思うが、研究不正防止の取組の記載との整合も含め、大学の方でもご検討いただきたい。

また、リカレント教育に関しては、社会的ニーズも高まっているAI・データサイエンス分野でも、社会人の方の受講も視野に入れて、実施いただきたい。